

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

4
2016
APRIL

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた

30
th



第21期 経営指針をつくる会開講

経営者としての覚悟を決めて思いを込めた
経営指針書をつくろう

創立30周年記念式典 パネルディスカッション

同友会の歩みと展望 ～なぜ同友会が必要とされるのか～

入局のご挨拶

山形同友会
創立30周年！
より地域に
必要な存在へ！！

2015年度スローガン

経営者としての覚悟を決めて思いを込めた 経営指針書をつくろう

3月19から20日にかけて「第21期経営指針をつくる会」(経営指針委員会主催)が開講しました。会場のホテルシンフォニーには、今期の受講生8名と修了生も駆けつけ、40名で学び合いました。

冒頭、菊池幸生経営指針委員長は、「経営指針をつくる会は答えを教えてくれる会ではありません。修了生の意見を参考に自分で結論を出していく会です。思いに行動と数字を入れた経営指針書を自分と向き合って作成していただきたい。5ヶ月間、一緒に頑張っていきましょう」と挨拶をしました。

同友会らしい経営指針とは



第1講では、東洋産業(株) 代表取締役 玄地学氏(宮城同友会副代表理事)が、「同友会らしい経営指針の確立～現状認識を深め、経営理念作成をめざして～」をテーマに講義しました。

玄地氏は「中小企業における労使関係の見解」の学ぶべき点として前書きの①経営者の経営姿勢の確立②経営指針の成文化とその全社実践③社員を最も信頼できるパートナーと考え、共に育ち合う教育(共育)的人間関係④外部環境の改善に労使が力を合わせていくという4点について触れ、「経営指針をつくる会は経営者としての覚悟を決める場」と語りました。

そして、同友会らしい経営指針とは「経営者の想い(生き様)を理念に込める」「経営者の決意と覚悟が入っている」「社員は最も信頼できるパートナーと捉える(社員が主役の会社にする)」「科学性・社会性・人間性の視点」を挙げました。

現状認識・情勢認識

環境が大きく変化している今、現状認識するためには情報をいかにとるかが重要となってくるとし、「表面的な情報

ではなく、自社が見るべきポイントを正確に客観的に社員と一緒に現状認識をしなければならない」と語りました。

その上で結果ではなく、原因で考えること。売上が上がった原因はお客さんが増えたのか、単価が上がったのか、購買頻度が上がったのかまでしっかりと見ること。それを踏まえて課題をどうするか。売上が足りない、人を募集しても来ない、原材料が上がってコストアップしているとよく聞かすが、これは課題ではなく問題であり、売上が足りないから営業を増やそう、キャンペーンをしよう、新規事業をしようということになれば課題になると説明し、問題を課題にしていくことを提起しました。

さらに「現状認識は将来のあるべき姿から考えないとできない。将来のあるべき姿から現状を見ることでギャップが生まれる。それを埋めるために必要なことを長期的な視点から計画し、実行することで課題が解決し、あるべき姿に到達していく。経営指針実現のためには将来のあるべき姿を描くことが現状認識のポイントとなってくる」と語りました。

最後に玄地氏は企業の継続発展のキーワードに「経営者の覚悟ということから進むべき方向をしっかりと示す(経営者の責任)」「自社の経営課題を解決する(問題と課題をしっかりとよりわけ)」「社員の働き甲斐、位置づけ」「価格決定権を持った商品」「長期的な人事政策」と、まとめました。

その後、「会社の現状はどうなっているのか?」「なんのために経営するのか?」をテーマとして二回のグループ討論が行われ、受講生は会社の現状と経営の目的を考え合い、経営理念の作成に入りました。

これから第21期経営指針をつくる会では毎月一回の講座が開かれ、受講生は会社と自分を見つめながら仲間と共に経営指針書の完成をめざします。



テーマ

同友会の歩みと展望 ～なぜ同友会が必要とされるのか～

コーディネーター	中小企業家同友会全国協議会	顧問	国吉昌晴
パネリスト	中小企業家同友会全国協議会	会長	鋤柄 修
パネリスト	中小企業家同友会全国協議会	専務幹事	松井清充
パネリスト	山形県中小企業家同友会	代表理事	西塔秀幸



国吉:山形同友会が30周年を迎えるということですが、当時中同協事務局長であった私は、設立時の応援にきたことを思い返し、とても感慨深いものがあります。

最初のテーマは「同友会の歩みと、その時代における役割～同友会誕生の時代背景～」です。

同友会は戦後の荒廃した国土の中で、1947年全日本中小工業協議会として、中小企業が日本経済の主人公になる日本を作らなければならないとの思いで動き出しました。1957年に日本中小企業家同友会(現東京中小企業家同友会)の創立、「中小企業家の、中小企業家による、中小企業家の為の組織をつくろう」と、自主・民主・連帯に繋がる理念を打ち出します。1969年には中小企業家全国協議会が設立、1973年同友会の三つの目的を成文化、1975年には労使見解が生まれました。1977年「経営指針を確立する運動」を打ち出し、1980年代は全国に同友会運動が広がり、会員が増えた時代の1985年に山形県中小企業家同友会が生まれました。1990年に同友会理念を採択、1993年には「21世紀型中小企業づくり」を宣言しました。ここからは松井専務をお願いします。

松井:2003年金融アセスメント法運動で政策を変えたその力で、憲章制定運動を提案しました。2009年にはリーマンショックが起きました。この時の同友会メンバーは、労使見解の精神から「経営者の責任」「維持発展させる責任」を持ち、「雇用を守る」「情報の共有をする」「新しい仕事を作る」に取り組み乗り越えてきました。その上で2010年に中小企業憲章が閣議決定されましたが、2011年に東日本大震災が起きました。震災時には山形の思いが、全国の物資供給ネットワークという形で届けられました。今、被災地では復興に向け条例づくりと地域づくりの動きが進んでいます。その流れの中で、エネルギーシフトが地域づくり・仕事づくりに結びついてきました。中小企業は経済の主役、社会の主役、要するにその地域で「生きる」を作ることを宣言したのが憲章であり、同友会の役割です。

国吉:それでは山形同友会の30年というところで、西塔代表からお願いします。

西塔:1985年6月、天童市を中心に48名で山形県中小企業家同友会が発足。それから毎年会勢を伸ばし458名の会員で今日を迎えています。1987年山形市・寒河江市・天童市に支部ができました。1995年、創立10周年目にさくらんぼ支部ができました。2001年新入社員研修開催、2002年にはそれまでの三支部合同例会が第1回経営研究集会として開催。2005年には全国行事初主幹となる中同協第21回社員教育活動全国研修・交流会開催、同年11月には庄内支部設立。2010年第38回中同協青年経営者全国交流会を行いました。2015年6月には新庄最上支部の設立となっています。

国吉:次のテーマは、「時代がかわっても不変の同友会哲学～同友会運動を進めることでどう変わるのか～」ですが、鋤柄会長いかがでしょうか。

鋤柄:同友会の三つの目的は、よい会社をつくろう、よい経営者になろう、よい経営環境をつくろうとありますが、私なりによい会社とは、同友会の自主・民主・連帯の精神が会社運営の中でも活かされているかどうかです。経営指針を作り社員が自主的に考える環境をつくって、経営者と社員が連帯していかないと会社は思うようにいかないですね。また、三つの目的の中に「強靱な体質」とありますが、私は「人・物・金」に当てはめています。しかしそれだけはダメで、会社のルールが必要です。それにもとづいて運営ができるようになると、お客様や取引先、金融機関からの信頼もできてきます。

よい経営者は、よい会社づくりをリーダーシップを発揮しながらやる人です。よい経営者の資質には統率力や判断力も必要ですが、先見力も必要です。そしてそれをできるまでやり通すことです。

よい経営環境ですが、自分の会社だけで何ともならない



ことを、会員が集まり他団体とも手を組み、行政や議員に訴えながら経営改善運動を進める。その為に会員の数が一定数必要です。

国吉: 続いてのテーマは「実践事例の紹介」となっています。同友会運動の実践として松井専務と西塔代表にお聞きします。

松井: 山形同友会も大学と提携していますが、全国でも15の同友会が30の大学と協定を結んでいます。特色あるのが徳島県で、「中小企業を先生が知らない」ということで、新任の小中高の先生117人を対象にインターンシップをしています。また、大阪同友会は10の高校と、授業内で「働くとは」のテーマでグループ討論をしています。金融関連は12の同友会が政策金融公庫との提携、21の同友会が各地金融機関と提携が始まっています。憲章条例では「条例づくりその後」ということで、北海道別海地区では医療崩壊を食い止めようと、「医良同友」という健康な地域づくりに取り組んでいます。経営指針運動は全同友会で取り組まれています。実践する上で、労使見解を本当に腹に据えているかどうかが一番大きな課題です。

西塔: 私が最初に出た例会は参加者がたった4名でした。そんな時もありましたが全国の行事に参加したり、様々な行事に取り組んだりしながら、1996年には第1回経営指針作成セミナーを行いました。今は21期目で卒業生は125名輩出してあります。その経営指針を作成し、実践し成果を上げた人を中心に同友会理念が根付いてきました。各委員会や部会も増え、現在5委員会2部会となっています。その中でも地域活性委員会では、山形大学と1つの銀行、4つの信用金庫と提携し授業を行っています。また某金融機関からは同友会専用の商品を作っています。

国吉: 山形同友会30年の歴史の中で、自社と同友会の成長につながる取り組みをしっかりとやってきていただいた。その成果が今につながっていますね。次のテーマは「そして、未来へ～中同協の未来に向けた取り組み～」ということで、松井専務をお願いします。

松井: 1つ目は、各地域で「この地をどうするか？」のビジョンを作っていただきたい。そして新しい仕事と働く場を作り出す企業を、日本の隅々に広げていただきたい。現在全国77%の地域に会員がいますが、支部のある地域でも会員がいない区域があります。ここに会員をつくりそれを大きくして支部をつくる。その為にも同友会全会員が信頼される企業づくりが必要だと思います。

2つ目は現在人手不足が最大の問題だと思います。千葉同友会会員の事例では、生活保護者を受け入れています。生活保護者や障害者などの社会的弱者を受け入れている企業は、同友会の企業づくりを進めているといえます。全ての地域でそういうことができる企業を増やす運動をしていきたいと思っています。

鋤柄: 各地同友会の集合体が中同協です。現在中同協の組織は中小企業憲章・条例推進本部、5万名推進本部、情報化推進本部の3本部制になっており、これらが5年先を見ながらやっています。2019年には中同協が50周年を迎えます。その節目に会勢5万名にしていこうということです。会員を増やす意味は、仲間が増えるといろんな経営課題を持ち寄ることになります。答えも同じで、それがいい循環になると思います。また、社員が「この会社で働けてよかった」と思える企業を、全国の同友会につくっていききたい。それには経営指針をつくり、共同求人などで定期採用できる体力をつくり社員を教育する。その教育は社内だけではなく、人間性を含めて社会に出た時に役立つ人を育てていく、三位一体活動を続けていきたいと思っています。

それからエネルギーシフトは、太陽光発電や風力発電がありますが電気だけではありません、いかに熱利用をするかが課題です。それらの事例をもとに、中小企業の仕事づくりに役立てていただきたいと思っています。まずは同友会らしく学ぶところから始めていただきたい。

国吉: 最後に「山形同友会へのメッセージ」ということで、鋤柄会長、松井専務一言ずつお願いします。そして、それに答える形で西塔代表理事から決意表明をいただきたいと思っています。

松井: 人を大切に作る企業を広めていただいて、連携しながら



ら新しい山形ブランドを作っていただきたい。もう一つは山形同友会が強靱な組織になるしくみをつくっていただきたい。しくみを作る為にも連続した役員研修会に取り組んでいただくと、語り部づくりになるのかなと思います。聞くだけでは勉強にならないと思うので、実践の中から自分の言葉で話す人を作っていただきたいと思います。

鋤柄:山形県にまんべんなく支部ができたなと思いますがもし空白地域があれば、新しい支部づくりに取り組んでいただきたい。もう一つは若い経営者の方に同友会に入っていて、若いうちから経営を学ぶ機会を作っていただきたい。それから女性です、これは全国的にも一緒ですが、できれば女性会員が20%の組織にしたいと思っています。これからは女性が活躍してもらわないといけない世の中になるとしますので、女性経営者の方を誘っていただきたいと思っています。

西塔:今日は鋤柄会長、国吉顧問、松井専務幹事にご参加いただき、大変ありがたいことだと思います。その期待に応えていく為にも若手経営者、女性経営者、そして会員がいない市町村に会員や支部をつくっていき、早急に500名達成とその先につなげていくことを決意として御礼の挨拶とさせていただきます。

国吉:本日のまとめとして、1つは同友会が目指す企業、この企業づくりがあってこそ同友会です。真剣に学び、その学んだ成果をご自身だけにとどめず、会内や会外へ広めてい



ただければと思います。

2つ目は地域づくりです。昨今地方創生と言われておりますが、我々は以前から地域を元気にする責任は中小企業にあると提言してきました。振興条例はなんの為に作るのか、行政や市民と一緒にこの地域をどう元気にしていくのか。その主体は企業家自身ですので、大きな責任感をもって同友会で取り組んでいただきたいと思います。

3つ目は同友会づくりです。皆さんはそれぞれ支部に所属しており、その会員相互のつながりが大事だと思います。同友会に入ってよかったという思いを、多くの方に広めていただきたい。いい会社が増えることが地域の雇用を守り、若い人が喜んで住める地域になっていく。そういう社会的な使命感をもって、同友会に誘っていただければと思います。

これらの同友会運動を、役員を中心にした会員の皆さん、そして事務局と車の両輪として進め、行政・金融機関・大学ともいい関係を築いていただきたい。今後山形同友会が東北の、さらには全国の模範となることをお願い致しまして、パネルディスカッションを終わらせていただきます。

4月例会のご案内

さくらんぼ支部

中小企業にとってのフロンティアとは ～世界の視点で山形を見る～

2016.4.27 (金) 18:30～21:00

場所: さくらんぼタントクルセンター 2F
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者: Le Monde en Direct 代表 白井健道氏

少子高齢化が叫ばれる日本ですが、現在約70億の世界人口は、2040年には90億人を超える推計されています。中でも、アセアンには今後5～25年に人口ボーナス期を迎える国々があります。日本のすぐそばに、有望かつ親日的な国・市場が存在しています。

更には、TPPの枠組みにより加盟国の政府調達への外国企業参入も促進されます。未加入の韓国、タイ、インドネシア、フィリピンは参加の意思を表明しています。

我々の目の前には何があるのでしょうか?東京を中心に物を考える人々が言う「疲弊した地方経済」ではなく、伝統的で力強い地方経済圏と可能性に満ちた世界市場が広がっていると考えられることはできないでしょうか。

地方間連携の可能性や海外市場との関わりについて考えていきたいと思っています。

入局のご挨拶



後藤 駿

この度、山形同友会事務局に入局しました後藤駿と申します。このような機会を頂き、誠に感謝しております。

会員の方々が互いに助け合い、事務局と一丸となり、より高みを目指し質の高い活動している同友会の取り組みに惹かれ私も力になりたいと思い入局を決めました。事務局員として、情熱溢れる会員の方々とともに、同友会の発展、さらには山形県の発展に貢献していければと思っております。

学生時代、陸上の長距離で培った体力・忍耐力には自信があります。真面目に向上心を持って取り組んでいきますのでどうぞよろしくお願いたします。



石山 栄美子

この度、山形同友会事務局に入局しました石山栄美子です。

前職は、銀行勤務やメーカー営業として山形仙台地区を担当し、その中で山形の魅力を再認識し、地元へ貢献したいという想いが強くなりました。この御縁を大切に、皆様のお役に立てるよう日々、頑張りますので宜しくお願い致します。

第12回理事会報告

◆日時:2016年3月7日(月)午後2時~午後4時30分 ◆会場:山形ビッグウイング ◆議長:後藤副代表理事
◆出席者(敬称略):青柳、阿部(秀)、安藤、越前屋、大場、奥山(享)、奥山(正)、小林、後藤、西塔、齋藤、佐藤(卓)、佐藤(知)、庄司、白鳥、菅原、高橋、玉津、水沢、若木、事務局矢作、高橋(理事19名出席)

■開会挨拶(西塔代表理事)

「今期もいよいよ大詰めです。今期の活動のまとめや来期の活動方針、更に役員改選等重要な会議となる。活発な意見交換をしていただきたい」と述べた後、「同友会発展のために」を引用して、役員の方針の重要性について語りました。

■報告事項

- 1)第三者委員会の報告(奥山委員長)
経過説明と意見をいただきました。
- 2)経営指針委員会の報告(菅原副代表理事)
第21期経営指針をつくる会が受講生8名で3月19日より開講する。
- 3)社員共育委員会の報告(小林副委員長)
4月4日に山形県産業創造支援センターで合同入社式・新入社員研修が行われます。
- 4)共同求人委員会の報告(玉津委員長)
・2月16日の宮城同友会主催「経営者と就職担当者の就職懇談会」に2名で参加し、情報交換を行ってきた。
・日本インターンシップ学会関東支部「第2回研究会」(3/26)にパネリストの依頼があり、㈱サニックス 佐藤社長が担当する予定。
・2017共同求人活動には現在24社が参加します。就職情報誌と合同企業説明会の案内を作成し、山形県・宮城県の各大学へ配布していきます。
- 5)中同協「第46回全研」in香川(2/18~19)の報告
(西塔代表理事・菅原副代表理事)
山形から4名で参加。全体会議の徳武産業㈱ 代表取締役会長 十河孝男氏の講演が素晴らしかったので、山形同友会の経営研究会でも講演していただきたい。ぜひ玉津理事からご尽力いただければありがたいとの意見が出されました。
- 6)2016年2月月次決算報告(矢作事務局次長)

■承認事項(入会承認) 4名入会 2名退会
3/7現在 会員数 455名

■討議事項

議題1:増強の取り組みについて

安藤理事より今期目標に向けて、「3月例会へのワングスト運動」「3/25の新会員オリエンテーションへのワングスト運動」への取り組みが提起されました。

委員会の活動を知って頂くために「委員会だより」を今月から発行。今後の発行スケジュールと担当委員会を決めました。

また、理事会や各種会議に欠席の方への対応として、温度差を埋め

るために会議などの映像記録を届けることが提案され、検討していくことになりました。

議題2:議案書(案)について

西塔代表理事が「2015年度活動のまとめ」「2016年度活動方針(案)」を説明し、承認されました。

2016年度事業計画としては「役員研修」「第13回経営研究集会」「新春交流会」「第3次中期ビジョン」「第33回定時総会」を実行委員会を立ち上げ行っていくことが決まり、委員長が決まりました。

2016年度予算(案)について、青柳副代表理事より提案され、各支部や委員会より要望と会員名簿作成のための予算などを調整し、4月理事会で継続審議することになりました。

議題3:2016年度役員体制について

西塔代表理事より提案され理事会推薦の2016年度理事(案)が決められました。

議題4:第32回定時総会の開催について

高橋理事より提案され、下記のとおり決められました。

1)開催目的について

- ①前年度の同友会活動の総合的なまとめを行い、会員企業と同友会がさらに発展するための新年度方針を決めるとともに、より積極的な活動を進めていくための役員を選出します。
- ②会員・事務局が、自らの課題解決へ新たに挑戦する機会とする。
- ③自社の個性を見つめ直し、磨き上げ、独自性を打ち出すきっかけとする。

2)社員さんの参加費について

会員さん同伴の社員さんの参加費は無料

3)グループ長スキルアップ勉強会について

●日時:4月6日(水)

●会場:山形ビッグウイング

議題5:短時間事務局員採用について

西塔代表理事より石山さんを採用することが提案され、承認されました。

■その他

- 1)中同協・第4回幹事会(3/9 東京) 西塔代表理事参加
- 2)東日本大震災復興シンポジウム(3/10~11 福島・宮城) 西塔代表理事参加
- 3)第13回理事会日程
●日時:4月13日(水)14:00~16:00
●場所:山形ビッグウイング

■閉会挨拶(青柳副代表理事)

山形同友会 会費改定のお知らせ

昨年の「第31回定時総会」において会費改定案が提案され、2016年4月より月額5,000円から6,000円に改定することが承認されております。

企業づくり、地域づくりを支える同友会の健全財政を維持し、地域になくしてはならない企業そして同友会をめざしていきます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。



◎高石孝輝氏

KAREN hair design
オーナー
美容業
山形支部

◎土谷昌行氏

㈱土谷
代表取締役
食品製造業
山形支部

◎菊地貴之氏

(有)菊地農機商会
専務取締役
農業機械販売修理
寒河江支部

◎水見江一氏

ペイントワークミズミ
代表
塗装工事業
置賜支部

同友やまがた4月号(2016年4月1日発行/通巻277号)

From Editor

“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:info@yamagata-doyu.jp